

科学研究費助成事業（学術創成研究費）研究進捗評価

課題番号	19GS0102	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	目録学の構築と古典学の再生－天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明－		
研究代表者名 (所属・職)	田島 公（東京大学・史料編纂所・教授）		

【平成22年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
（評価意見）		
<p>禁裏・公家文庫収蔵本のデジタル画像の集積は、期待以上の成果を挙げている。これを公開することにより、今後の研究の発展が期待される。蔵書目録・文庫史の研究、禁裏・公家文庫収蔵史料の個別研究の研究者への還元、古典学普及のための市民向け啓蒙活動についても、順調に研究成果を挙げている。東山御文庫本・伏見宮家本の「デジタル画像目録」の作成については、「目録学」のコンセプトをより明確にする方向での具体化が望まれる。『日本古代人名辞典』の増補・改訂については、新たに大型の研究費を申請することで、その研究成果に期待したい。</p>		

【平成24年度 検証結果】

検証結果	禁裏・公家文庫収蔵本のデジタル画像の集積は順調で、期待以上の研究成果を挙げており、これを公開することにより、書誌学・古典学へも研究成果が波及している。東山御文庫本・伏見宮家本のデジタル画像目録の作成は、研究計画を見直し、棒目録とデジタル画像との組み合わせによることとし、史料編纂所閲覧室での公開に向けて作業が進行中である。蔵書目録・文庫史の研究については、陽明文庫所蔵の蔵書目録・カード掲載全ての近衛家所蔵資料のデジタルデータ化及び、『目録学の構築と古典学の再生』の公刊など、デジタル画像目録システムの作成に向けて着実に研究成果が挙がっている。『日本古代人名辞典』の増補・改訂については、同辞典の全内容をExcelデータとして入力し、増補改訂に備えており、奈良文化財研究所の「木簡人名データベース」の公開により、古代史・古代文学研究の基礎的ツールとして利用可能となった。禁裏・公家文庫収蔵史料の個別研究の研究者への還元、古典学普及のための市民向け啓蒙活動についても、順調に行われている。
A	